

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。(興味関心に応じて)地域をフィールドにそれぞれの知見を深め、価値を創出していく。



【地域の基礎データ】

人 口：14,595 人（令和 3 年 1 月末現在）

高齢化率：42.1%（令和 2 年 1 月 1 日現在）

産 業：林業、水産業、観光業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：8 名（1 回生：1 名、2 回生：3 名、3 回生：3 名、4 回生：1 名）

活 動 期 間：平成 28 年 6 月～

担 当 教 員：八島雄士、岸上光克

1. 活動実施の経緯

本 LIP は、色川ならではの行事や風習への参加を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して「学生が感じたこと」を地域住民に発表する場を設けることで、住民のいわゆる「鏡効果」醸成にも寄与してきました。

2. 活動の内容

色川地区は、1970 年代頃から移住者を受け入れてきた地域として有名ですが、主に訪問する小阪区は、比較的移住者は少なく、昔からの地域行事や風習が残っているところが特徴です。棚田や茶畑が地域資源として知られています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地を訪れる困難さのなかで、感染症対策をして棚田作業体験（藁撒き作業）を 1 度だけ実施できました。また、オンラインを活用する取り組みとして、現地発行誌「色川だより」のアーカイブ化、オンラインによる住民との意見交換会などを実施しました。

3. 活動を通じて

色川での暮らしや住民の皆さんの色川への想いについて知ることができました(1 回生)。棚田作業の経験から農業の大変さをより深く学ぶことができました(2 回生)。コロナ禍にあって、住民と学生のマッチングが上手くいかないこともありました。しかし、オンラインでの LIP 活動も可能であることに気が付くことができました。遠隔地である点を考えて、今後もオンラインを活用した活動を工夫していきたい(リーダー：3 回生・森田 光)。

4. 成果物（ポスター）

和歌山大学観光学部地域インターンシッププログラム（LIP）2020

那智勝浦町色川地区

地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える（興味関心に応じて）地域をフィールドに、それぞれの知見を深め、価値を創出していく

和歌山大学
観光学部 Faculty of Tourism

和歌山県 那智勝浦町
Natsuyasu Town

色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど走った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していきました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。ただ、LIPの活動を主に行っている小阪区は、他区と比べ移住者は少なく、その代わりに昔からの地域の行事や風習が比較的残っている地域となっています。地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名であります。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に関催されています。

色川地区でのLIPについて

2016年度から活動を行ってきた那智勝浦町色川地区におけるLIPは、色川ならではの行事や風習への参加（フィールドスタディ）を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して学生と住民が関わることにより、住民のいわゆる「鎮効果」醸成にも寄与してきました。2020年度は、これまでの活動をベースにしつつ、棚田などにまつわる地域の課題解決に向けた具体的なアクションを起こすことで、地域の課題を「自分ごと」にする取り組みも予定していました。

2020年度活動報告

2020年度の活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の計画通りの活動を出来ませんでした。しかし、現地を訪れなくても出来る活動を考え、実行することで、学生の学びを深めました。また、1度のみではありましたが、感染対策を万全に実施した上で、LIP参加学生全員が現地を訪れる機会も設定し、棚田の保全作業などを体験しました。

「色川だより」アーカイブ化

大学で出来る活動として、「色川だより」のアーカイブ化を行いました。本誌は、1992年から現在に至るまで定期的に発行されており、色川の時事トピックや、移住者の自己紹介などの記事が掲載されています。アーカイブ化により、色川についての理解を深める文献を、いつでも確認できるようになりました。

棚田作業体験

フィールドスタディとして、棚田に草を撒く作業を体験しました。住民とコミュニケーションを取りつつ、短い時間ではありましたが、地域資源の保全についての理解を深めました。

住民との意見交換会

色川地区の住民と交流する場として、意見交換会をオンラインにて実施しました。当日は、主にコロナ禍における色川地区の現況について、住民と意見を交わしました。中山間地域におけるリアルな現況について学びきっかけとなりました。

参加学生の声

- LIPの活動全体を通して、色川での暮らしや住民の皆さんの色川への想いについて知ることが出来ました。
- 棚田での作業の経験は、滅多にすることのできない経験であったため、貴重な経験をさせて頂き、また農業の大変さをより深く学ぶことが出来ました。

今後の展開

本LIPでは、学生が地域に入り、住民個人が実際に抱えている具体的課題に対しその解決に向けての活動を行うことが主でありました。しかし、住民と学生のマッチングが上手くいかない場合も多々あったため、今後は、地域の課題として一般化している部分を抽出し、そこでの活動を行っていく予定です。また、今年度はオンラインでのLIPの活動も可能であることに気が付くことができた1年でありました。色川地区は遠隔地であるため、コロナ禍が終息した晩にも、現地での活動を軸としつつ、補完的にオンラインを活用した活動も行っていきたいと考えております。